

最高賞の「フィレンツェ大賞」を受賞



▲受賞作品の「シンショク」。道路に引かれた白線を題材に、互いに侵食を繰り返す人間と自然の攻防を表現しています。

はなな  
杉山花菜さん



プロフィール

平成6年生まれ。  
六郷小学校、菊川東中学校 卒業  
浜松江之島高校芸術科美術専攻 卒業  
静岡県内で働きながら制作を続け令和  
2年に北海道の星槎道都大学に入学  
現在3年生

若手作家164点の頂点に輝く

新潟県にある雪梁舎美術館が主催する「第24回雪梁舎フィレンツェ賞展」で、菊川市出身の杉山花菜さんの作品が全国から応募があった164点の作品の中から、最高位の「フィレンツェ大賞」を受賞しました。全国規模のコンクールでの大賞受賞は初めての杉山さん。受賞の連絡をもらった時のことを「あまりの驚きで声が出ませんでした」と振り返ります。

絵を描くために北の大地へ

「とにかく絵を描くことが一番楽しかった」と話す杉山さん。絵を学べる高校に進学しようと考え、中学3年生で絵の勉強を始めました。高校では美術専攻に在席し、絵画の知識や技術を身に付けました。高校卒業後は専門学校に進学しましたが、肌に合わせて1年で中退。それでも絵を描くことが好きで、美術大学への進学を目指して、働きながら学費を貯めようと行動を始めます。「美術大学はお金がかかるので、親にも遠慮して行きたいとは言いませんでした。専門学校は学費も借りていたので、働いて少しずつお金を貯めました」と進学までの道のりを話す杉山さんですが、「大変というより、のんびりしているので、1つずつやっていっ

たら進学が今になっただけ」とさらりと云うてのけます。

北海道の大学を選んだのは、大学の評判だけでなく、今までと全く違う環境に身を置いてみたいとの思いから。今回の受賞作品もそんな北海道だから生まれた作品だと言います。「北海道の路面は、雪の影響で静岡と比べてすぐにポロポロになる。それが面白いと感じ題材にしました」。また、「製作中に現地を見に行くと、1年前に構想用にとった写真よりも劣化が進んでいたもので、それに合わせて絵もどんどんと『劣化』させていきました。その結果がこの作品になりました」と、作品誕生の経緯を話してくれました。

期待を胸に芸術の都へ

今回の受賞の副賞として、3カ月間のイタリア留学が贈られた杉山さん。大学卒業後、時期を見て芸術の都に旅立つ予定です。「イタリアに行くのはとても楽しみです。今よりもさらに違う環境なので、いっぱい刺激をもらえらると思います。もしかしたら作風にも影響があるかもしれません」と期待を膨らませます。また、「卒業後も作品は描き続けます。仕事をしながらになるとは思いますが、とにかく描く環境を整えていきたいです」と笑顔で話してくれました。